

JR 列車事故対応訓練

～大地震発生！ 出火した列車から乗客 50 人を救出！！

2月3日、JR西日本神戸支社姫路鉄道余部信号場構内で、列車事故対応訓練が実施されました。山崎断層帯を震源とする震度7の地震により、JR姫路線を走行中だった普通列車が、地震の影響で運転を誤り線路内に転落した乗用車と衝突。列車は先頭車両がトンネルに進入した状態で停車。その後、先頭車両が炎上し多数の傷病者が発生したという想定。

消防、JR職員の連携の下、迅速な救出救助活動が行われました。トリアージポストに搬送されてくる多数の傷病者を、医療チームが医療処置の優先順位を決めるトリアージを行い、カテゴリー別の処置テントに運び込まれました。

本訓練に参加したのは姫路赤十字病院救護班。重症テント（最優先治療群）、中等症テント（待機治療群）の両カテゴリーを受け持った医師、看護師らは、獅子奮迅の動きで傷病者の安定化を図り、主事は医療統括を配した現地調整所、搬送に伴う消防機関と緊密な情



他機関と連携し、懸命に傷病者の救助を行います

報伝達を行い連携を図りました。

近年の多様化する災害では、他機関との連携が必要不可欠であり、その重要性をあらためて認識することのできる訓練となりました。

講習のご案内 ～健康で安全な生活を送る知識と技術を～

お待たせしました！皆さまからたくさんのお問合せをいただいていた、平成24年度の講習の日程が決まりました。けがや病気、災害から自分の身を守り、ケガ人や病人を正しく救助するための知識と技術、皆さんも是非、受講してみてください。

日本赤十字社は、これからも皆さまが健康で安全な生活を送るためのお手伝いができるよう、救急法等の講習の普及活動に努めてまいります。

内容		開催日
救急法基礎講習		4月14日(土)
		5月9日(水)
		6月3日(日)
救急法救急員養成講習(2日間)		6月23日(土) 24日(日)
救急法基礎・救急員養成講習(セット講習 3日間)		4月21日(土) 22日(日) 28日(土)
		5月3日(木・祝) 4日(金・祝) 5日(土)
		5月20日(日) 26日(土) 27日(日)
		6月9日(土) 10日(日) 16日(土)
水上安全法救助員養成講習(4日間)		5月6日(日) 12日(土) 13日(日) 26日(土)
幼児安全法支援員養成講習(3日間)		5月12日(土) 13日(日) 19日(土)
健康生活支援講習(3日間)		6月17日(日) 23日(土) 24日(日)
科目別講習	幼児安全法	こどもに起こりやすい事故の予防と手当について 3月21日(水) 10:00-12:00
		こどもの一次救命処置 3月21日(水) 13:00-15:00
	救急法	骨折の手当てと搬送法 3月21日(水) 15:30-17:30
	健康生活支援講習	誰もが知っておきたい介護の基礎知識 4月15日(日) 10:00-12:00
		高齢者の健康管理と家庭内の事故防止と応急手当 4月15日(日) 13:00-15:00
	救急法	AEDを使用した一次救命処置 4月15日(日) 15:30-17:30



● 開催場所は、いずれも日本赤十字社兵庫県支部です。



パソコンから

詳細及びその他の講習についてはホームページで

赤十字 兵庫

検索

www.hyogo.jrc.or.jp

ひょうごの赤十字



Contents

特集

災害対応力を身につけよう！！

- 平成23年度日本赤十字社兵庫県支部評議員会開催
- 知っていれば安心！心肺蘇生とAEDの使い方
- 高砂市赤十字奉仕団防災講演会
- 平成23年度兵庫県高等学校青少年赤十字協議会例会（第3学期）
- JR列車事故対応訓練
- 講習のご案内





災害対応力を身につけよう！！

～災害時をはじめ、健康で安全な日々を送るために～

2月11日、篠山市立城南小学校で、ひょうご安全の日推進事業「災害対応力を身につけよう！！」を開催しました。

前日からの冷え込みで、到着時間の午前10時頃にはまだ、小学校のグラウンドは一面うっすらと雪が残っていました。

このイベントは、17年前の阪神・淡路大震災の経験と教訓の継承という趣旨で、今年で5回目を迎えました。今回は、篠山市、篠山市教育委員会等の協力のもと、篠山市城南地区まちづくり協議会の皆さま、三田市赤十字奉仕団、丹波市赤十字奉仕団、赤十字防災ボランティア、特別赤十字奉仕団、姫路、柏原、多可、神戸赤十字病院、血液センター、支部職員等、約130人余りが参加。

県立篠山鳳鳴高等学校放送部のアナウンスでスタート。午前中は、同小学校を災害現場と仮定しての合同実践訓練。ボランティアセンターから派遣されたボランティアが、それぞれグラウンドにエアータント、ワンタッチテントで救護所等を設営しました。

その後、地域赤十字奉仕団と協議会の皆さまによる炊出しや、運ばれてきた救援物資の配布準備が行われ、実際に災害が起きた場合、迅速に協力し合って動けるよう、心構えを身につけました。

午後からは、地域の方も交えて赤十字に親しんでいた

くためのイベントです。参加して下さる皆さまに、災害時に役立つ知識と技術を楽しく身につけていただけるように、さまざまなコーナーを設けました。

災害時高齢者生活支援体験では、平時、災害時に関わらず、高齢者の方のケアの仕方を体験。毛布でガウンを作るなど、身近なもので工夫を体験します。また、担架搬送体験では、同じ毛布が今度は担架に変身。意外な使い方に、皆さん興味深く体験されていました。

キズの手当てに便利な三角巾の使い方や、普段触ることのできないAED体験にも多くの方が参加されました。

小さな子供たちには救護員の制服で記念撮影。すっかり救護員気分です。救急車に乗り込む可愛い姿も見られました。バルーンアートで動物や剣を作ってもらい大喜び、景品目指して輪投げに熱中……中でも人気が高かったのは、救難飛行赤十字奉仕団の紙飛行機作りでした。団員が作り方から飛ばし方までしっかりと指導。「作るのはちょっと難しかったけど、楽しい。」何度も何度も、飛ばしては追いかける子供たちは本当に楽しそうでした。

テントの設営訓練や、普段できない様々な体験を通して、参加された皆さんに「災害対応力」は身についたでしょうか。



ぼくも救護員だよ、かっこいいでしょ



うまく飛ぶように、作る子供も真剣です



イベントでは非常食も人気です



平成23年度日本赤十字社兵庫県支部評議員会開催

2月16日、兵庫県支部で平成23年度第2回評議員会が開催されました。

評議員、役員等、53人が出席し、平成23年度事業報告に続き、「平成24年度兵庫県支部事業計画及び平成24年度歳入歳出予算」について審議され、いずれも承認されました。

井戸支部長の挨拶では、まずは昨年3月の東日本大震災における支部の災害救護活動に触れられました。支部の初動の様子、被災地で24時間体制の医療救護活動を展開したことなど。そして、被災地はようやく復旧復興の段階になっているが、引き続き出来る限りの支援を続けたいと話されました。

また、兵庫県としても17年前の阪神・淡路大震災の経験を活かしながら、この30年のうちに発生する確率が70%といわれる東南海・南海地震に備えて、安政の大地震にも耐えられる



挨拶をされる井戸支部長

対策と、身の安全を守るための避難ができる体制の準備を進めていこうという思いを述べられました。



知っていれば安心！心肺蘇生とAEDの使い方

～赤十字救急法ミニ講習会 イオンモール姫路大津～



AEDへの関心が高く、とても熱心です

2月18日、イオンモール姫路大津で、「知っていれば安心！～心肺蘇生とAEDの使い方～」と題して、救急法のミニ講習会を開催しました。

買い物客で賑わう店内に開設した講習会場には、訓練用人形を置いた講習コーナーの他に、東日本大震災の活動パネルや赤

十字の事業紹介パネル、救援物資を展示し、多くの方に見ていただきました。

ミニ講習は、「一度やってみたかったのよ、教えてもらえる？」と、一番乗りで気さくに入って来られた女性をはじめ、小さな子供から年配の方まで、81の方が参加。

地域で人工呼吸や心臓マッサージを習ったことがある、子供にも覚えておいてもらいたいという親子、学校で勉強したので実際に触ってみたかった、将来お医者さんになりたいからという小学生たち、家族の方が病気がちなので覚えておきたい……など、皆さんそれぞれの思いを持って熱心に説明を聞き、体験されていました。やはりAEDの操作方法など関心はあっても講習会にまでは足を運べない方が多く、「教えてもらえてよかった、勉強になりました」と、言っていました。

“大切ないのちを守る正しい知識と技術”、実際に活用する場面はない方がよいのですが、参加された皆さんのいのちに対する意識の高さを頼もしく思える講習イベントでした。



高砂市赤十字奉仕団防災講演会

1月30日、高砂市福祉保健センターで高砂市赤十字奉仕団防災講演会が奉仕団員等約200人の出席で開催されました。この講演会は、地域赤十字奉仕団のより一層の活性化を目指して制定された「モデル奉仕団」の指定を平成23年度に受けた高砂市赤十字奉仕団が、地域防災に関する活動の一環として開催しました。

はじめに、北野高砂市赤十字奉仕団委員長より、高砂市赤十字奉仕団の歴史的背景を交えた挨拶に続き、日本赤十字社兵庫県支部東田事務局長からの講演「東日本大震災における兵庫県支部の活動および地震津波災害に対する備えについて」があり

ました。

講演では、今後想定されている地震津波災害についても詳しい話があり、参加者は、自らの命、自らのまちは自ら守るといふ防災の原点を再認識すると同時に、地域全体の防災力向上にむけた取組みを推進しなければいけないという意識の高揚を図ることができました。

最後に登壇高砂市地区長からのご挨拶をもって閉会となり、参加者はホールに展示された兵庫県支部の活動パネルを読みながら会場をあとにされました。



平成23年度兵庫県高等学校青少年赤十字協議会例会(第3学期)

2月5日、兵庫県高等学校青少年赤十字協議会例会(第3学期)が開催されました。

これは学期ごとに担当する高等学校がテーマを決め、青少年赤十字のメンバーが集って開催しているもので、今回は、神戸第一高等学校、兵庫県立明石高等学校、兵庫県立上郡高等学校、兵庫県立国際高等学校、親和中学校・親和女子高等学校の5校からメンバー14人と先生(指導者)6人が参加しました。

第3学期の担当校である兵庫県立明石高等学校のメンバーが、障害のある方々に焦点をあて、2学期のテーマ「高校生が出来る東北震災支援について考える」を発展させて進行。兵庫県立香風高等学校の下雅意講師の「災害時の要援護者支援のあり方～聴覚障害者を通して～」と題した講演を聞いた後、各グループに分かれて「障害のある人に、自分達には何が出来るか」をテーマにひとり一人意見を出し、話し合いました。障害のある方や高齢者に対し、偏見や心の壁をつくらず積極的に関



自分達にできることってなんだろう……

わる、そのような方が生活で困りそうなところを把握しておく、日常生活で笑顔や前向きな姿勢を心がけるなどといった身近ですぐに実行できるような意見が多く出されました。

普段からの準備や心構えなどの重要性を再認識できた有意義な会になりました。